



STOP! the ^{や ん ば}ハッ場ダムニュース

IN 埼玉

ハッ場ダムをストップさせる埼玉の会

No. 47

2017年7月15日



巻 頭 言

○グリーン連合というNGOがあります。

• 当会（ハッ場ダム埼玉の会）は加入していませんが、ハッ場ダムあしたの会を含めて多くの環境団体が加入しています。

• 設立：この会は、「環境文明21」、「ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議」、「原子力資料情報室」、「グリーンピース」、「ISEP」などが中心になって、全国の環境団体に呼びかけて、2015年6月に設立されました。現在のメンバーは84団体です。

• 設立趣旨：地球温暖化に伴う気候変動は世界中に大きな被害をもたらしますが、現実の政治は目先の経済規模の拡大を求めており、持続可能な社会への政策転換は進んでいません。そこで環境NGO/NPOが各組織の個別の目的を超えてお互いのつながりを結集し、強く社会に働きかけることが重要であると認識し、全国ベースでの結集を呼びかけました。

• 第1回の環境省との打ち合わせは2017年1月に環境省大臣・事務次官以下関係者と、グリーン連合の主要メンバーとの打ち合わせで始まりました。環境省は現実の政治の中での発言力は弱く、今後グリーン連合との打ち合わせを定期的に行います。

• 第2回目は今年の6月14日です。今回のテーマは環境教育についてです。

○私の思い

• 多くの政策や政治的な提言は、公平に評価し

て、賛否両論があります。

例えば、イギリスのEU離脱、米仏の大統領選挙、（一般論としての）日本国憲法改正の是非、東京都の卸売市場移転問題、などいずれも一長一短です。

• いずれか一方だけが絶対的に正しく、他方は誤りと云うことは（滅多に）ありません。限られた予算を福祉の充実に使うか、教育に向けるかも似たような事情です。

• しかし、多くのダム、霞ヶ関導水事業、思川開発、スーパー堤防など、公平に議論すれば「明らかに」不要有害な事業が優先されることがあります。巨費を投じて環境破壊するリニア新幹線も同様です。これらの事業は、一部政官業の私益のために、法を曲げ、事実を偽って政治的に強行されています。

• 一方、老朽化した鉄道や道路・港湾・トンネル・上下水道管・震災復興事業など急務なのに予算が廻されない事業もあります……私はこのように必要不可欠な事業に、ムダな公共事業に優先して予算を割り当てるべきだと考えます。

• そのためには、「グリーン連合」のような全国組織でムダな公共事業反対運動を全国的に盛り上げることができれば、それなりの効果が期待できるのではないかと考えます。

• いずれこのテーマを「グリーン連合」で提起したいと考えています。

2017年5月27日 河登一郎

多くの問題、矛盾を抱えながら 進められているハッ場ダム建設工事

ハッ場ダム本体コンクリートの打設工事が昨年10月から始まりました。最近のダム建設工法の技術進歩があり、打設工事がスピードアップされています。今年5月初めには堤高116mのうち、底部から約2割までの打設が進んだと報じられています。現在の計画では2019年度前期までにダム本体と関係設備をつくり上げ、2019年度後半に試験湛水を行って、2019年度末（2020年3月）にダムを完成させることになっています。しかし、私たちが指摘してきた問題は何ら解消されることなく、ハッ場ダム建設工事が進められており、これから多くの問題、矛盾が露呈してくると予想されます。

1 事業費の更なる増額

昨年12月の第5回基本計画変更で、ハッ場ダムの事業費が4,600億円から5,320億円へと、大幅に増額されましたが、重要な増額要因が落とされています。

①増額要因（1）代替地整備費用の大半の負担

ハッ場ダム事業では谷の大規模な埋め立てや山の斜面への造成など、地形条件の悪い中で無理をして代替地をつくっていますので、整備費用がきわめて高額になっており、とても分譲収益だけで賄うことができません。私たちの試算では代替地整備の費用収益の収支は100億円程度の赤字になり、それを事業費に上乗せすることが予想されます。

②増額要因（2）東京電力・水力発電所への減電補償

吾妻川には上流から下流まで東京電力の水力発電所がいくつもあって、吾妻川に流れるべき水の大半が水力発電所への送水トンネルの中を流れています。ハッ場ダムに水を貯めるためには、この発電所への送水量を大幅に制限しなければなりません。しかし、水利権は先行のものが優先されますので、発電所への送水量を制限するためには、東京電力に対して発電量の減少



ダム本体工事

分について補償金を支払わなければなりません。私たちの試算では、この減電補償額は130～200億円以上にもなります。

③増額要因 (3) 地すべり対策の追加

次に述べるように、第5回基本計画変更が示された地すべり対策はきわめて不十分であり、地すべり対策の追加が必至と考えられます。

2 地すべり対策は十分か

今回の基本計画変更では地すべり等の安全対策費用が141億円増額されました。その内訳は地すべり対策96億円、代替地安全対策44億円です。変更前の計画では地すべり対策はわずか6億円、代替地安全対策はゼロでしたから、当然の増額です。ハッ場ダム予定地は地質の脆弱なところが多いので、貯水して水位を上下すれば、地すべりが発生する可能性が高く、また、30%以上にもなる超高盛土の代替地も湛水後の安全性について大きな不安が持たれています。

しかし、地すべり等の安全対策はまだまだ不十分なものです。例えば、川原湯温泉新駅付近の川原湯地区・上湯原は対象外になっています。この地は背後の金鷄山から崩落した崖錐堆積物が広く分布し、過去、何度も土石流がこの一帯を襲いました。ダムに貯水すれば、地下水位の変動で地すべりの危険性が高まることが心配されているところですが、対策不要となりました。

地すべり等の対策を講じる地区も、専門家の

検討によれば、計画されている工法では安全性が確保されるとはいえず、将来において多くの不安が残されています。

3 工期再延長の可能性

上述のとおり、現計画の地すべり対策は不十分なものですので、試験湛水および完成後の本格運用で深刻な地すべりが発生して、その対策費用が新たに必要となり、工期が延長される可能性が十分にあります。日本のダム事業では、次のようにダム完成後の試験湛水で深刻な地すべりが発生して巨額の追加地すべり対策費が必要となり、工期が大幅に延長された事例があります。ハッ場ダムもそのような事態に至る可能性が十分にあります。

大滝ダム (国交省)

完成時期 2003年度→2012年度 9年延期
追加地すべり対策費 308億円

滝沢ダム (水資源機構)

完成時期 2005年度→2010年度 5年延期
追加地すべり対策費 145億円

ハッ場ダム事業の行く末を見据えよう

ハッ場ダム事業は上記の他にも基本的な問題、矛盾を抱えながら、強行されています。

私たちはこれからもハッ場ダム事業の行く末をしっかりと見据え、その不合理性を追及していきたいと考えています。



ブルーシートで覆われた遺跡調査調査の現場

ハッ場ダム建設工事見学記

☹️ 自然が破壊される様は、
もう見たくない ☹️

温泉大好き女子を誘って、新緑のハッ場ダム現地見学会に参加しました。

春と秋に企画される見学会ですが、この時期は特に長野原町の山々の新緑が美しく、日頃の疲れを癒してくれます。

しかし、山から下に目をやれば、そこはハッ場ダム建設現場です。

吾妻線に乗り、初めて降りた川原湯温泉駅や吾妻渓谷の様子を記憶の中から思い起こそうとしている自分がいました。

高台から見る工事の様子に声を失いしばらく茫然として立ちすくみ、また、水没予定地では盛んに縄文遺跡や江戸時代の屋敷跡の調査が行われ、この地域が暮らしやすい環境であったことも想像することが出来ます。

公共工事によって自然が破壊される様は、もう見たくないと思いながらも、このハッ場ダム建設を見続けて行きたいと考えています。

(大高文子)

☹️ 温泉好きの私にとって、
とても残念 ☹️

5/14(日)ハッ場あしたの会主催の2017年春の現地見学会に参加しました。

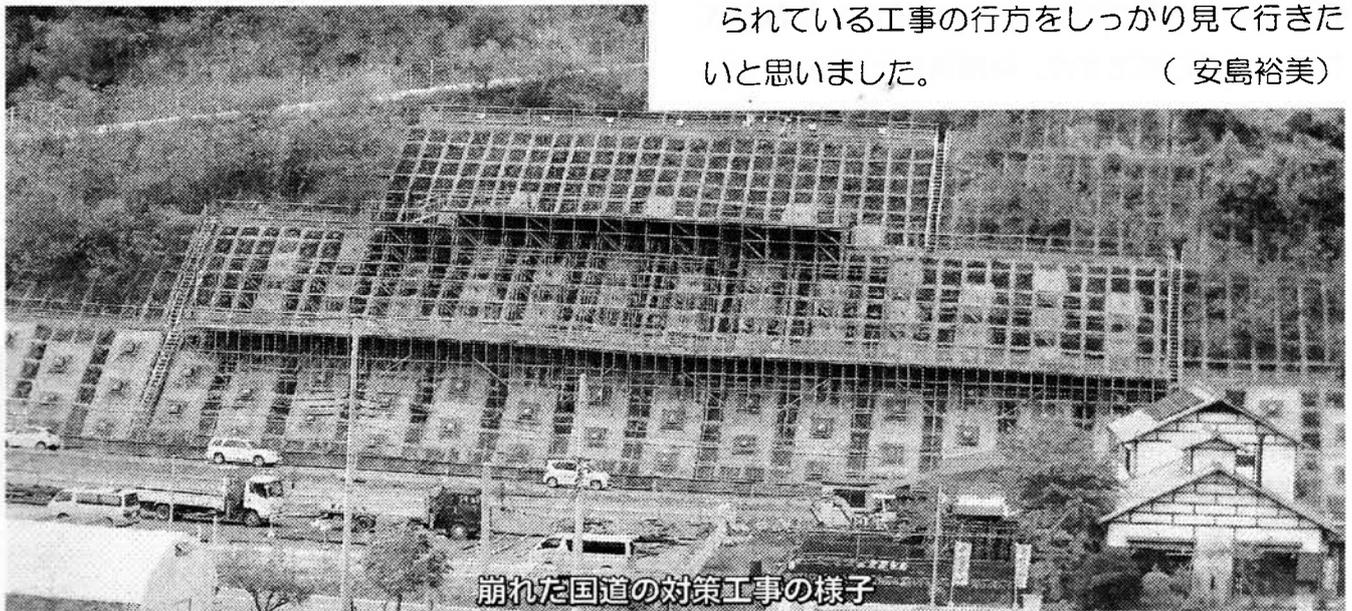
私が初めてこの地を知ったのは、30年前です。草津温泉に行く途中に吾妻渓谷を散策し、自然の素晴らしさに驚き感激した事を覚えています。

次に知ったのは、ハッ場ダム計画により800年続く川原湯温泉が沈んでしまうニュースです。温泉好きの私にとって、とても残念でなりませんでした。

あしたの会の活動に参加しているO氏から話を聞いたたびに、本当に必要なダムなのか疑問に思う事ばかりでした。今回の見学でもダムに水を貯めるために、水力発電所に送られている水の大半を吾妻川に戻さなければならず、減電補償金を支払う必要があるとわかり、またまた疑問が広がります。

代替地に移転した温泉につかりながら、自然を破壊し、住んでいた人々の生活を奪って進められている工事の行方をしっかり見て行きたいと思いました。

(安島裕美)



崩れた国道の対策工事の様子

ハッ場ダムをストップさせる埼玉の会 総 会 報 告

去る3月11日（土）埼玉の会の総会が開催され、出席された会員の皆さんの賛同を得て、2016年度の活動報告および会計決算、2017年度活動方針および予算が承認されましたことをご報告いたします。

●2016年度 活動報告

8月にハッ場ダム工事の事業費を4,600億円から5,320億円へ、720億円増額するという第5回企画変更案が公表され、1都5県に同意が求められました。当会は、埼玉県議会に「ハッ場ダムの追加費用負担は認めないことを求める請願」提出。

県議会議員に働きかけましたが、企画変更案は同意されてしまいました。

また、ハッ場ダムをはじめとする不要なダム建設を推進する誤った河川政策に変革を求め、3月に策定された荒川水系河川整備計画の問題にも取り組み、荒川第一調節池やさらに計画されている第二～四調節池予定地を見学しました。

「STOP! THE ハッ場ダムニュースin埼玉」No. 44, 45を発行し、埼玉の会ブログではハッ場ダム最新情報を発信しました。

●2016年度決算報告

収入合計 469,396円（繰越金292,389円含む）

支出合計 215,294円（裁判記録作成費用含む）

2017年度への繰越金額 254,102円

●2017年度 活動方針

ハッ場ダム本体工事着工後もハッ場ダムの基本的な問題点を追及し、河川行政の在り方や税金の使われ方など根本からの変革を求め活動して行きます。

ハッ場ダム事業の実態を把握し、問題の解決を探るとともに情報の共有を図ります。

ニュース発行、ブログで最新情報を発信します。
<http://yambasaitama.blog38.fc2.com>

また、今年度は荒川調節池の問題の理解と解決のための講演会や学習会、見学会等に取り組みます。

会費およびカンパのお願い!

埼玉の会の活動は、皆様の会費やカンパによって支えられています。

日頃より当会の活動に対してご理解とご支援を頂きまして、心より感謝申し上げます。

引き続きご支援ご協力をお願い致します。

年会費：2,000（2017年1月～12月）

郵便振替口座：0180-334-064

加入者名：ハッ場ダムをストップさせる埼玉の会

